

<今回>204回目 2017年2月10(月)15時~18時 603号室  
読書は8冊目「邪馬壹国の論理」79P その他の問題 より

<前回>203回目(17-1-30) 出席者8名  
資料 17-01-30-1) 前回のまとめ(清水)  
-2) 神奈川新聞、黒曜石  
-3) 下山氏通夜(清水)

#### A 報告

多元の会前幹事長の下山さんが亡くなられて、1月29日(日)通夜があったので出席したときの報告をした。

津多家で6名、10252円(1500・2+1600+1700・3)、-552

B 資料 -3) 下山氏が急逝されて通夜に出たので、思い出を作成した。-2) 神奈川新聞に箱根の黒曜石の記事がのっていた。黒曜石は屈折率で産地が特定できるので、便利である。縄文人の交流を推定することができる。

前は資料の説明で読書の時間がなかったため、残りは資料の後半を省略して、読書にはいった。

#### C その他の問題

- 1) 榎氏の間 邪馬壹国の命名法はない。A 命名法はない。不耐滅と書いている例から、邪馬倭とした。それを倭国の2心なき忠節を賞美して邪馬壹国とした。(Qは質問、Aは古田氏の答えの意味)
- 2) Q 良い意味の文字が外国の名の一部に用いられるのであれば臺が使われてもよいのではないか。A 壹は臣下としての美德で、臺は天子の朝廷禁省(上下逆方向の佳字)
- 3) Q 断髪文身は小康の庶子自身であって、彼が教えたのではない。A 歴史事実そのものではなくて陳寿の歴史理解、王から民への感化を上下の形で史記・漢書をとらえている。歴史事実は民の風習を取り込んだ、もう王位に復帰する心はないことを示す。
- 4) Q 夏王朝の不存在は当時の学会での常識ではないか。A 研究途上の予測で示して大過はなかった。
- 5) Q 塞曹掾史は奏曹掾史のという。A 推量で史料上の証拠はない。
- 6) 聖壹と聖臺 A 原文に聖壹とあるものを聖臺にするには聖壹が誤りという論証を示すべきで、兄弟同一文字を共有する例もあるくらいでは憶測である。
- 7) 魏志にいわゆる邪馬臺なるものなりについて、後代名称で書き換えるというのは史書の記述法である。(倭-日本)
- 8) Q 隋、北史の順序問題に対して A 内藤湖南の論文の順序に対する批判だから。当然、隋-北史の順である。
- 9) 少々、各々とQ 原文には1文字しかない。A 書き下ろしをして、2文字で書いた。岩波文庫の書き下ろしにしたがったのであって、写真版には1文字ということを知っている。逆に紹熙本を原文と呼んでいるのは論難の時とどう違うのか。
- 10) Q 太平御覧の引用省略の仕方が不正確であるという。A 太平御覧は倭国使節の対中屈従の描写に書き換えていることを論証した。
- 11) Q 会稽南部の問題(南郡は南部の誤りであるというが)A 陳寿の分郡記事は正確である。粗大な論証である。
- 12) Q 紹熙本の極精美 善本の義は①足本②精本③旧本で紹興本は精本美本として優れているが旧本ではない。紹熙本がより旧本である。張元済の絶妙な惜辞の中に表現された。

誤記誤植の問題 榎氏は嘲笑の具に使用。榎氏も倉曹、蛟竜、百納本ほかの誤記誤植がある。

史料に依拠する立場 いままでそう言われてきたのが常識という。榎説(放射線状読み)に対して三品彰英氏は特定の人の特定の読み方(昭和23年)と評された。古田説に対して緻密な反証を行わず珍解釈、痛罵で答えられようとした。論争に必要なのは実証性の有無だけだ。

次回日程 2017-2-20(月) 15時~18時 1503号室